

## 新年あいさつ

2015年の輝かしい新春を迎え、町民の皆さまとともに心からお慶び申し上げます。旧年中は、皆さまから町政諸般にわたり特段のご理解ご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、春耕期の渇水により田植え作業に大きな影響がありました。各用水組合の迅速な対応により被害を最小限に留めることができました。その後は天候に恵まれ農作物全般の作柄は良好でありましたが、米価など作物によっては販売価格の低迷もあり生産額が期待通りとならなかった面もありました。こうした中であって、町民の悲願でありました厚幌ダムが10月に本体着工となり、平成30年度供用開始に向け大きく前進したことは、大変喜ばしいことでした。関連する国営農業用水再編対策事業、道営ほ場整備事業、厚真川河川改修事業、統合簡易水道事業も厚幌ダム建設の進捗に合せ進められており、漸く安全で安心なまち、効率的で安定した生産基盤が間もなく実現します。これまでご協力いただいた関係各位に改めて感謝申し上げます。

さて、年末には、衆議院議員総選挙が執行されましたが、人口減少・地域創生という日本社会の構造的な課題や円安による物価高が地方経済や私たちの暮らしに負の連鎖をもたらさないよう、的確で迅速な政治的配慮を強く望みたいと思います。コメ政策の大転換や農業分野の規制改革、TPP問題など第一次産業における喫緊の課題についても、地方を尊重し都市との共存に必要な総合戦略を早期に示していただくことを期待しています。

地方を取り巻く環境は、これまで同様に大変厳しいものがありますが、特に人口減少社会がクローズアップされる中、本町においては、人口動態のうち社会動態は最近の5年間で転出・転入が拮抗しており、人口減少傾向が改善してきています。自然動態は依然として一定数の減少を続けていますが、内外において本町の特色を生かした重層的な移住・定住・子育て支援政策が評価をいただいているといえます。教育の面では、子供たちの「生きる力」の育成を目指してまいりましたが、幼児教育・全国学力・学習状況調査結果において継続して好成績を収めるなど小規模校ならではの取り組みの成果が表れてきています。改めて学校・家庭のこれまでのご努力と子供たちの頑張りを讃えたいと思います。

今年は、厚南地区において子ども園・児童館の建設に着手するとともに、同地区で現在建設中の子育て支援住宅を、今後は厚真市街地も含めて計画的に建

設し、若い世代が安心して子どもを育てられる環境づくりを総合的に進めてまいります。

厚真市街地区においては、障がい者の日常生活や社会活動を支援し、併せてバス待合を兼ねた町民交流の場となる複合型地域福祉活動拠点「まちなか交流館」を4月開館を目指して整備中であり、また、起業化支援事業などを活用して飲食業や菓子・パン工房、美容業など個店開業・準備が少しずつですが続いています。皆さんに親しまれてきた店舗の閉鎖もありましたが、6次産業化、農商工連系、グリーン・ツーリズムなど様々な分野での新たな挑戦と支援を通して、賑わいの再生と本町の潜在力を十分に引き出してまいりたいと思います。

また、今年、平成28年からスタートする「次期総合計画」の取りまとめの年であり、苫小牧市と医療や交通、産業振興など様々な分野で連携を図り、広域的なまちづくりを進めるための定住自立圏形成協定の締結年でもあります。加えて、「まち・ひと・しごと創生法」に基づく厚真町版地方創生総合戦略の策定を予定しています。他にも間もなく答申をいただくものとして第7次厚真町農業振興計画、新たな子ども・子育て支援計画、第6期高齢者福祉・介護保険事業計画と多岐にわたりますが、いずれも厚真町のまちづくりの指針となる重要な計画でありますので、「人を育て・人を残し、豊かな森と海、輝く田園を次世代へ」をテーマに議会や町民の皆さま、関係機関などと十分な議論のうえ策定作業を進めてまいります。

人口減少社会の到来という困難な時代ではありますが、確かな努力と挑戦者としての気概をもって、山積する課題一つ一つに丁寧に向き合っていかなければなりません。2015年が大いなる飛躍の一年となるよう、職員とともに全力を傾注してまいりますので、皆さまのご支援ご協力をお願い申し上げます。

結びに、町民の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

平成27年1月1日

厚真町長 宮坂 尚市朗